

広島記念病院後期研修プログラム(消化器内科)

(1) コースの概要

A. 一般目標: ①内科臨床医として必要な知識習得のための研鑽に励み、的確なプライマリーケアが行えるよう努める。②消化器専門医としての基礎を学び知識習得に努める。③保険医療制度および地域医療における連携のしくみなど、我が国における医療の側面を理解する。

B. 行動目標: ①チーム医療の構成員として働くことが出来る。②患者、家族との信頼関係を築くことが出来る。③一般臨床に必要な知識・技術、特に消化器疾患に必要な知識・技術の習得に努める。④学会発表、論文作成など、学術活動を積極的に行う。

(2) 指導体制

診療部長または内科医長が後期研修医の指導責任者となる。各々の専門技術の指導は各医長を中心とした内科上級医が行う。

(3) 在籍レジデント数

2名(内科は独立しており他科とのローテーションは行わない)

(4) 研修内容

1年目、2年目の外来(月一金の午前)業務は、主として検査;上下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、その他の超音波検査につく。3年目は、これに加えて外来1枠の担当を任せる(全体の状況により流動的)。午後は病棟回診と入院患者の検査につく。また、土曜日午前の外来担当が約2ヵ月に1回割り当てられる。毎週水曜日の夕方に内科カンファレンスを、毎週土曜日の午前中に入院患者のカルテ回診を行っている。毎月第2月曜日の夕方に医局会を行っている。

(5) 処遇

A. 勤務時間;8時30分～17時15分(月一金)

B. 当直回数;休祭日の日直を含め、月2～3回(3～4ヵ月に一度、輪番当直あり)。

C. 休日;土、日、祭日。夏季休暇として5日間(1日は年休扱い)あり。

D. 身分;常勤

E. 基本給与;1年目370,072円

2年目420,018円

3年目470,420円

(4年目520,480円)

上記に時間外手当での追加あり

賞与として1、2年目は夏季、冬季ともに1ヵ月、3、4年目は夏季1ヵ月、冬季2ヵ月

F. 宿舎;あり

G. 学会出張支援;年1回あり。発表者には毎回あり。

H. 病院職員駐車場;なし

(6) 関連学会施設認定状況

日本内科学会認定教育施設(教育関連病院)、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設

(7) 診療実績(平成20年度)

全体として250床、そのうち約40床は産婦人科病床である。当院は内科、外科を含めた混合病床であり、各診療科単位での病床数の決まりはない。

内視鏡件数;上部消化管内視鏡3913件(治療内視鏡262件)、大腸内視鏡検査2125件(治療内視鏡520件)、ERCP179件、腹部超音波検査3380件、甲状腺超音波検査433件、乳腺超音波検査269件

(8) 学術関連実績

A. 後期研修医による過去5年間の学会発表;日本消化器病学会(全国学会)4回、共済学会(全国)2回、日本消化器病学会(地方会)9回、日本消化器内視鏡学会(地方会)8回、日本内科学会(地方会)3回、広島医学会総会5回、広島消化器病研究会1回

B. 後期研修医による過去5年間の論文発表;共済学会誌1編

(9) 施設の特徴

当院は消化器に特化した病院として広く知れ渡っており症例数にも恵まれている。消化管、肝、胆、膵の専門医による直接指導が受けられる他、外科や放射線科との関係も良好で、消化器専門医を目指した研修を行う上で優れた環境にあると言える。一方、中区、西区、安佐南区を中心とした地域医療支援病院としての役割を担っており、消化器疾患に限らない一般内科のプライマリーケアの研修を積むことが出来る数少ない市中病院である。広く一般内科の診療に携えることは消化器内科を標榜する施設では制限があり、卒後早期のうちにこれらを経験出来ることは将来の臨床活動の上で大変貴重な財産になるものと考えている。